

言語聴覚士になるためにはどうする？

ごく一般的な流れを図1を参考に説明します。高校を卒業後、文部科学大臣が指定する大学（4年制、3年制短大）、または、厚生労働大臣が指定する言語聴覚士養成所（3年ないし4年制の専修学校）に入学し、必要な知識と技能を修得して卒業する必要があります。卒業後、毎年1回開催される言語聴覚士国家試験に合格し、厚生労働大臣から免許を受けると、言語聴覚士として働けるようになります。

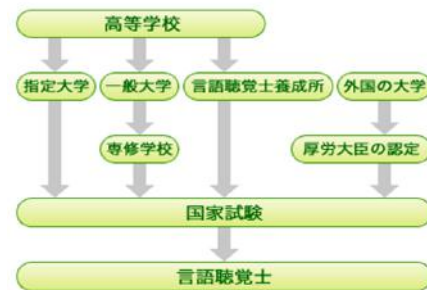


図1. 言語聴覚士になるための流れ

どんなことを学ぶのか？

養成校(専門学校・大学)では、多くの医学的な知識はもちろんのこと、人間の心の働きを理解するための心理学や認知科学、ことばや音声のしくみについての言語学や音声学、社会福祉や教育についての科目も学ぶこととなります。多くの専門知識を学ぶため、難しいと思うかもしれませんが、ほとんどが養成校に入学してから新たに学ぶものばかりです。スタートラインはみな一緒です。目標とやる気があれば十分ですし、学生の中に新たな発見も出来るかもしれない、とても魅力のある領域です。また、社会に出てからは、知識や技術はもちろんのこと、観察力や想像力、患者さんに的確に伝えるための表現力、適切な信頼関係を築く力も必要となります。患者さんの思いを受け止めることのできる、豊かな人間性が大切になるのです。



嚥下評価の様子

皆さんも学業だけでは得られないさまざまな出来事を、今のうちにたくさん体験して欲しいと思います。

どんなところで働いている？

言語聴覚士が働いている場所はさまざまですが(図2)、医療の領域ではリハビリテーション科や耳鼻咽喉科などがある病院、介護・福祉の領域では老人保健施設や障害者福祉センター、発達・療育の場面では通園施設、学校などがあります。最近では、言語聴覚士が患者さんの自宅に伺う訪問リハビリテーションも盛んになってきており、活躍の場が広がってきています。

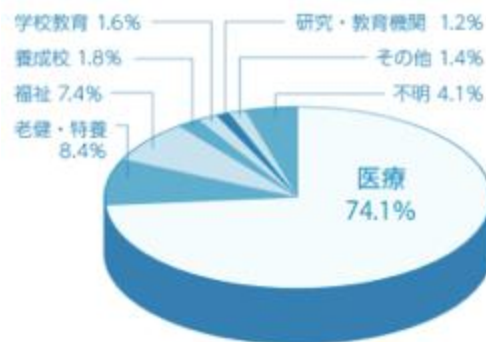


図2. 言語聴覚士の所属機関

先輩からの声 (安曇野赤十字病院、言語聴覚士のみなさん)



言語聴覚士として病院で働き始めて、いろいろな体験をしてきました。大変で辛い時もありますが、自分が関わることで、昨日うまく伝えられなかったことが今日は伝えられるようになった姿、「ああ美味しい、入院して初めて口から食べました」と喜ばれる姿を見られることは、本当に嬉しいことです。言語聴覚士はこんな感動を味わえる魅力のある仕事だと思います。

最後に・・・

興味がわいて「言語聴覚士を目指そう!」「なってみたい!」と思ったのなら、検索サイトから『日本言語聴覚士協会』または、『長野県言語聴覚士会』と検索してみてください。みなさんの進路・職業の相談に少しでもお役に立てば幸いです。